

平成27年度
フードバリューチェーン構築推進事業
(うちインドにおける二国間事業展開支援)

調査報告書

平成28年3月
(2016年)

株式会社インフォブリッジマーケティング&プロモーションズ

<目 次>

1. 展示会出展企業と連携した我が国食産業の進出可能性調査
 - 1) インドにおける展示会の位置づけ
 - 2) インド連邦政府・各州政府の農林水産・食品分野にかかわる省庁・公的機関の開催する展示会概要
 - 3) 食関連事業インド進出における展示会の活用への提言
2. 他国企業等のインドへの進出動向調査
 - 1) 各国の活動状況
 - 2) インド政府・団体における評価と期待（インタビュー結果まとめ）
 - 3) 日本企業に期待される活動
3. インドにおける我が国食関連産業の方向性（全体まとめ）

1. 展示会出展企業と連携した我が国食産業の進出可能性調査

1) インドにおける展示会の位置づけ

概況：

- ・ インドの食品生産量は、中国に次いで世界第二位に位置する。たとえば、Indian Brand Equity Foundation の 2016 年 1 月の統計によると、インドは「世界最大の牛乳（1 億 3770 万ト）、マンゴー（1840 万ト）、バナナ（2970 万ト）生産量、および、水牛頭数（1 億 1129 万匹）、世界第二位の果物（8900 万ト）、野菜（1 億 6290 万ト）、魚介類（960 万ト）生産量」を誇っている。
- ・ 一方、国際貿易全体に占めるインドの食品輸出量は、わずか 1.5%に過ぎない。また、食品生産量が、急速な人口成長による食品需要の増加に追い付いていない。加えてローテクな生産手段が、生産性を非効率にしている。2012 年の産業別就業人口比率を見ても、第一次産業が 47.2%と半数近くを占めるのに対し、食品加工業を含む第二次産業は 24.7%に過ぎない。食不足の問題に対応すべく、インド農業省は、穀物生産量を増加させる「食の安全計画（National Food Security Mission）」を始めとした「食」産業の活性化に努めている。さらに、農業・加工食品輸出促進機構（The Agricultural and Processed Food Products Export Development Authority）は、農業・加工食品の輸出額を 150 億米ドルに引き上げることを目標としている。
- ・ そういった中、インド政府は「食」政策の一環として、食品展示会の開催を支援している。たとえば、India Food Expo 2016 におけるインド政府の目的は、「現在、穀物生産量の増加および効率的なサプライチェーンの構築が、国内の課題となっている。そのため『食』産業における技術活用が必要となってきた。（中略）しかし、生産・保存・ロジスティクス・マーケティング分野のハイテク技術が目の目を見る機会は少なかった。（中略）それゆえ、最新技術を導入するために、数千の食品加工業者・メーカー・貿易業者たちの前で、出展する企業の製品・サービスを披露する絶好の会場」を提供することにある。
- ・ 食品展示会における出展者の主な目的は、①B to B の商談を通じて、自社製品の新規顧客を獲得すること、②企業関係者だけでなく、一般消費者に対して製品展示を行うことで製品の注目を集めること、の二点である。さらに、食品展示会に出展する利点として、③ビジネスデイを中心に、裁量権の高いビジネスパーソン（経営者など）が訪問するため、迅速に商談が進むこと、④国内から多数の同業他社が一同に会するため、業界内のネットワークを構築できること、⑤専門・関連分野のハイテク技術を把握できること、の三点が挙げられる。
- ・ 近年は、インターナショナルパビリオンの設置などを通じて、外国企業を誘致する食品展示会も増加している。この理由として、外食産業の発展に伴う「食の洋風化」により、海外食品ブランドへの国内需要が増加していることが挙げられる。

日本も含めた外国企業にとってみれば、消費者、企業の自社製品の反応を直に知ることと同時に、インド進出に際する現地でのパートナー探しが可能である。一方で、インド企業にとっても、海外のビジネスパートナー発掘および海外のハイテク技術視察、といった機会となる。

参考文献：

<http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/international/spw/general/india/>

<http://www.indiafoodex.com/index.html>

<http://www.nfsm.gov.in/>、<http://www.fhwexpo.in/>

<http://www.ibef.org/exports/agriculture-and-food-industry-india.aspx>

<http://www.publishyourarticles.net/knowledge-hub/essay/how-to-write-an-essay/article-on-food-problem-of-india-and-how-to-solve-it/607/>

<http://lawmin.nic.in/olwing/coi/coi-english/Const.Pock%202Pg.Rom8Fsss%2836%29.pdf>

食品関連の展示会概要：

- ・ JETRO サイトで紹介されている展示会数（2014年4月～2016年3月の2年間）は、アジアの中で、中国、日本に次ぐ3位（2016年1月20日時点）。
- ・ 上記期間における JETRO で紹介されているインド展示会は、全体で258件、うち、「食・飲料・食品加工」「農林水産業（生産物含む）」「ホテル・レストラン・ケータリング」のいずれかの業種を含むものは69件と、全体の1/4強を占めており、インドが当分野に非常に力を入れていることが分かる。
- ・ 開催都市の中心はムンバイ、デリー、バンガロールといった大都市部であり、特に「ホテル・レストラン・ケータリング」はそれら都市に集中するものの、農業、食品分野では若干散らばりがある。これは、農水産物（一次産品）の産地で執り行われるケースがあるため（ラクナウ：酪農（乳関連）の一大産地であるウッタールプラデシュ州の州都、プネ：ムンバイ近郊の花弁園芸が盛んな都市、等）。
- ・ インド水産物輸出協会（MPEDA）によると、2年に1回開催されているインド国際水産ショーは、過去チェンナイで執り行われてきたが、2014年にAP州がテランガナ州、AP州に2分割されたのに伴い、2016年は、インドでの水産業の代表的な地域であるAP州沿岸部のビジャカパトナムに変更された、という。
- ・ このように、農水産・食品分野であれば、大都市部で開催される展示会だけでなく、第一産品によっては、その産地で行われる展示会も有用な情報源となりうる。

【表】 インドの業種・都市別展示会開催状況

	件数				
	全体	右記3業種 いずれかを 含む	食・飲 料・食品 加工	農林水産 業（生産 物含む）	ホテル・レス トラン・ケー タリング
インド全土	258	69	51	45	13
ムンバイ	83	20	17	7	6
デリー	67	10	7	5	3
バンガロール	26	11	6	9	3
チェンナイ	14	1	1	1	0
ハイデラバード	10	3	3	0	1
コルカタ	3	0	0	0	0
アーメダバード	3	1	1	1	0
チャンディガル	3	3	0	3	0
ジャイプール	3	0	0	0	0
ルディアーナー	1	0	0	0	0
その他都市計	45	-	-		
その他ーラクナウ	-	8	8	8	0
その他ープネ	-	3	0	3	0
その他ーコインバトール	-	2	2	2	0
その他ーブヴァネシュワ ル	-	2	2	1	0
その他ーその他都市	-	5	4	5	0

※JETRO サイトにて 2014 年 4 月～2016 年 3 月で紹介されているものをカウント。開催ごとにカウントしているため、年 1 回以上定期的に開催される展示会については重複カウント。

https://www.jetro.go.jp/j-messe.html?action_fairList=true&type=v2&v_2=009&v_3=003

2) インド連邦政府・各州政府の農水産・食品分野にかかわる省庁・公的機関の開催する展示会概要

- ・ 前章のとおり、農水産・食品分野にかかわる展示会が多いものの、インド政府および関連団体がかかわる展示会は **22 件**であった。
- ・ 日本企業の出展実績が見られたのは 10 件（一部情報なし）と半数に満たず、出展企業も設備機械系が中心。
- ・ いくつかの展示会については、協賛国やパートナー国がついており、フランス、ドイツ、オランダ、イタリアといった欧州の他、フィリピン、中国、韓国、スリランカ、ニュージーランドなど、アジア太平洋系の国も見られる。

【インド政府および関連団体の関係（主催、協賛）する農水産・食品分野の展示会一覧】

No	展示会名	開催年月日	開催都市	主催政府・関連団体	協賛政府・関連団体 ※主催が協賛が判別できない場合、協賛に記載	過去の日本企業出展	URL	過去実績	趣旨	開催頻度	出展企業の業種	協賛国情報
1	Agri Intex	第14回:2014年7月18日～21日 第15回:2015年7月17日～20日	Coimbatore	Coimbatore District Small Industries Association	タミルナド農業大学(TNAU)、ICRA、APEDAなど	落合刃物工業(2013年)	http://agriintex.codissia.com/	2012年 来場者数:119277(うち海外86) 出展社数:225(うち海外12) 展示面積:3800sq.m. 2014年 来場者数:119277(うち海外86) 出展社数:350(うち海外23) 展示面積:6250sq.m.	農業技術分野における南インド最大の展示会。	毎年	農業機器、水産養殖、バイオテクノロジー、肥料、有機農業、植物防疫	
2	Rice Tech Expo	第22回:2014年8月14日～16日 第23回:2015年2月13日～15日 第24回:2015年7月10日～12日	第22回:A Ahmedabad 第23回:Telangana 第24回:Bhubaneswar		Indian Institute of Crop Processing Technology(MOFPI傘下)	日本企業出展なし	http://www.ricetechexpo.com/	2011年 来場者数:15000(うち海外20) 出展社数:200(うち海外5) 展示面積:3500sq.m.	米産業に特化した国際展示会。2016年はスリランカでも開催される	1年に2回	精米機械、油種子加工機械、電気モーター、ポイラー、タービン	
3	Aahar	第29回:2014年3月10日～14日 第30回:2015年3月10日～14日	Delhi	Ministry of Food Processing Industries Agricultural & Processed Food Products Export Development Authority	ARCHI, FHSAL, HOTREMAIなど	レオン自動機(2014年) チャーヤ、キョウマンなどが日本パビリオンとして出展(2015年)	http://www.aaharinternationalfair.co.in/	2013年 来場者数:24016 出展社数:676 展示面積:41666sq.m. 2014年 来場者数:23586 出展社数:776 展示面積:44298sq.m.	インド最大級の国際食品見本市	毎年	食品・加工食品、食品加工機械、食品包装機械、ホテル・レストラン設備機器	ポーランド、カナダ
4	POULTRY FEST/Food Fest2014/Agri Fest2014/Dairy Fest	第3回:2014年10月10日～12日	Lucknow	UP州政府		過去出展企業情報の掲載なし	http://www.poultryfest.in/	2013年 来場者数:10000(うち海外64) 出展社数:80(うち海外4) 展示面積:6000sq.m.	食肉、酪農、農業産業が一堂に集まるUP州主催の国際展示会	毎年	家禽、食品加工、コールドチェーン、農業種子、化学製品、乳製品	
5	SugarAsia	第6回:2014年2月27日～28日 第7回:2015年5月22日～23日	第6回、7回ともにMumbai		AIDA, IISR, SESI, National Sugar Institute Government of INDIAなど	日本企業出展なし	http://nexgenexhibitions.com/sugarasia/	2013年 来場者数:1500(うち海外800) 出展社数:45(うち海外30) 展示面積:1200sq.m.	砂糖業界の国際展示会。会場はアジア各国が持ち回り	毎年	シュガー機械、エタノール機械、醸造機械、バイオマス、発酵、サトウキビ農業	スリランカ(Sugarcane Research Institute SRI LANKA)、フィリピン(Ethanol Producers Association of the Philippines)、イギリス(BONSUCRO)
6	Food & Grocery Forum India	第7回:2014年1月23日～24日 第8回:2015年1月14日～16日 第9回:2016年1月19日～21日	Mumbai	Food Processing Minister	Indian Importer Chamber of Commerce & Industry, Big Bazaar, Reliance Retailなど	過去出展企業情報の掲載なし 2016年の日本企業出展なし(主催社回答)	http://www.indiafoodforum.com/	2012年 来場者数:3735 出展社数:5000sq.m. 2014年 来場者数:6741 展示面積:5000sq.m.	食品産業に携わる世界中の小売業者・メーカー・組織が一堂に集うインド最大規模の総合食品見本市	毎年	乳製品、野菜、肉、加工、スライス、食用油、健康食品、デザート	
7	International Horti Expo	第7回:2015年2月20日～22日	Chandigarh	Ministry of Agriculture	NHB, NCCD, MIDHなど	日系企業出展なし	http://www.hortexpo.com/	不明	園芸技術に特化した展示会。2016年はムンバイ開催予定	毎年	果物、野菜、アグリバイオテクノロジー、薬草、ハーブ、加工	
8	Global Food Processing Summit and Awards	第7回:2014年6月5日 第8回:2016年2月9日～10日	第7回:A Ahmedabad 第8回:Delhi	Assocham	MOFPI, DSIR, DIPP, DST, MEME	過去出展企業情報の掲載なし Indo Nissin Foodsがスピーカー登録予定(2016年、主催社回答)	http://www.assocham.org/gfps/	不明	BiOおよびBiOGに特化した食品加工産業サミット	毎年	食品加工、研究機関、物流、金融、輸出入業者、	ポーランド
9	AgriTech India / India Foodex / GrainTech India / DairyTech India	第6回:2014年8月22日～24日 第7回:2015年8月21日～23日	Bangalore		Ministry of Agriculture, National Horticulture Mission, Horticulture Mission for North East & Himalaya States, Irrigation Association of Indiaなど	Satake India Engineering Pvt. Ltd. Daichi Jitsugyo (T) Co., Ltd. (2014年) ISHIDA INDIA PVT. LTD, ISUZU MOTORS INDIA PRIVATE LIMITED(2015年)	http://www.agritechindia.com/	2013年 来場者数:33700 出展社数:325 2014年 来場者数:36500 出展社数:371	農業技術・農場、農業食品加工技術関連の南インド最大級の展示会	毎年	農機具、化学、種子、コールドチェーン	中国、台湾、イタリア、トルコ、ドイツ、オランダ
10	Agro Protech	第5回:2015年11月19日～21日	Kolkata	ICC	MOFPI, Ministry of Agriculture, ICAR	過去出展企業情報の掲載なし	http://www.indianchamber.org/event-details/?p=agro-protech-2015	2013年 来場者数:不明(農家5千以上、カンファレンス参加者1500名記載) 出展社数:150社・団体以上	農業、園芸、酪農、水産、食品加工産業のBiOおよびBiOGの展示会	2年に1回	政府機関、灌がい、化学、輸出機関、包装、農家、食品加工、水産加工、酪農、家禽	南アフリカ、イスラエル、ニュージーランド、パキスタン、オランダ(Partner Country) ※2015年は日本がパートナー国という情報あり
11	Annapoorna - World of Food India	第9回:2014年9月24日～26日 第10回:2015年9月14日～16日	Mumbai		FICCI, Anuga(独企業)、Koelnmesse YA Tradefair(インド企業)	エミレーツ航空	http://www.worldoffoodindia.com/	2013年 来場者数:6334(うち海外182) 出展社数:177(うち海外86) 展示面積:2226sq.m. 2014年 来場者数:5767人(うち海外240人) 出展社数:185社(うち海外99社)	食品および飲料業界における最新技術、アイデア、ビジネスコンタクトの交換、インド市場開拓を目指す企業にとっては理想的な輸出基盤	毎年	健康食品、ジャム、果物、食品添加物、健康食品、生鮮食品、冷凍食品、アイスクリーム、スイーツ、肉、飲料	
12	Anutec International FoodTec/Sweet and SnackTec/Dairy Universe/PackEx India 2014	第10回:2014年11月14日～16日	Mumbai		IDA (Indian Dairy Association) West zone, IPMMA (Indian Pharma machinery Manufacturers Association)	不二製作所、川島製作所、三光機械(2014年)	http://www.foodtecindia.com/	2012年 来場者数:11385 出展社数:337 展示面積:19000sq.m. 2014年 来場者数:12007(うち海外867) 出展社数:466 展示面積:20000sq.m.	乳製品、スナック、飲料など多様な食品加工技術、貯蔵技術の展示会	2年に1回	乳製品、食品加工、包装技術、冷蔵技術	2014年のグループ出展パビリオン:中国、ヨーロッパ、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、韓国、トルコ
13	Drink Technology/ International PackTech India 2014	2014年9月25日～27日	Mumbai	Messe München International(ドイツ)	German Engineering Federation (VDMA)(ドイツ)	過去出展企業情報の掲載なし	http://www.drinktechnology-india.com/	2012年 来場者数:7500 出展社数:220	飲料及び液状食品の技術見本市。2014年から食品加工エリアも設置	2年に1回	醸造システム、包装、PET技術、加工技術	ドイツが主催国
14	EIMA Agrimach India 2015	2015年12月3日～5日	Delhi	FICCI、FederUnacom(イタリア)	ICRA、ministry of agriculture and farmers welfare	ヤンマー、クボタ(2015年)	http://eimaagrimach.in/	2013年(同時開催・併設展含む場合あり) 来場者数:26000人 展示面積:3万sq.m	農機具展示会	2年に1回	農業機械、肥料、灌がい、グリーンハウス、水耕農業	イタリア、エジプト、中国
15	Fi and Hi India	2014年9月29日～10月1日	Mumbai	UBM Group	MOFPI, APEDAなど	過去出展企業情報の掲載なし	http://www.figlobal.com/india/home	2013年 来場者数:6000 出展社数:300	食品添加物、食品加工の展示会。南米、EU、中国など各国で開催されている。	毎年	フード&ドリンク食材、健康、栄養補助食品、有機/機能性成分	
16	Food Hospitality World	2014 Mumbai:1月23日～25日 2014 Bangalore:6月12日～14日 2015 Mumbai:1月22日～24日 2015 Bangalore:6月11日～13日 2015 Goa:9月29日～10月1日 2016 Mumbai:1月21日～23日	Mumbai Bangalore Goa		APEDA, SIHRA (Shouth India Hotel & Restaurant Association)等	Hoshizaki(2015年Goa) Nishiki Noodles(株式会社アミー)(予定)(2016年Mumbai)	http://www.fhwexpo.com/	2014年Mumbai 来場者数:6229 出展社数:300 展示面積:6500sq.m. 2015年Mumbai(同時開催・併設展含む場合あり) 来場者数:6851人 出展社数:300社 展示面積:4,500sq.m	BiOに特化した食品総合見本市	1年に2回	アルコール、ノンアルコール飲料、パン、スライス、ベビーフード、冷凍食品、米、キッチンペーパー製品、ガラス製品	
17	Food Innovation 2015	2015年9月17日～18日	Delhi	PHD Chamber	DSIR, NSTEDB	過去出展企業情報の掲載なし 2015年の日本企業出展なし(主催社回答)	http://phdcci.in/image/data/Upcoming%20Events%202015/June%202015%20Brochure-International-Food-Innovation2015.pdf	詳細不明	展示会とカンファレンスを同時開催。カンファレンスでは技術者を対象にインド政府の政策や各国の最新技術等のセッションが設けられている	不明	専門技術者および研究開発に携わる研究者、品質管理マネージャーなどが対象	
18	India Cold Chain Show	2015年12月16日～18日	Mumbai	AIPFA, AFTPAI, Federation of Cold Storage Associations of India		Isuzu India Pvt Ltd(予定)(2015年、主催社回答)	http://indiacoldchainshow.com/	2014年 来場者数:3,816(訪問回数30か国以上) 出展社数:115 展示面積:5,500 sqm	コールドチェーンに特化した展示会	毎年	自動車、倉庫、ドア、冷蔵施設	フランス、イギリス、アメリカ(Country Pavilion)
19	India International Sea Food Show 2014	2014年1月10日～12日 ※2016年1月Chennaiの予定だったが開催地がVijayawadaに変更のため8月開催予定に変更	Chennai	MPEDA, SEAI		Indo Nissin, Ishida, YAMATO SCALE(いずれもインド法人)、神戸製鋼、Tokyo Sangyo、Yokosaki(2014年)	http://www.indianseafoodexpo.com/	2014年(同時開催・併設展含む場合あり) 出展社数:230社 展示面積:6,100sq.m	インドの水産加工業界の発展に向けた展示会	2年に1回	海鮮食品、養殖業者、品質管理ラボ、化学製品	
20	International Food, Drinks Equipment & Technology Expo	2015年12月3日～5日	Delhi	FICCI		過去出展企業情報の掲載なし	http://www.finefoodindiaexpo.com/	2012年 来場者数3533 出展社数:135	詳細不明	毎年	詳細不明	
21	Rice Pro Tech Expo 2014	2014年11月14日～16日	Rajpur(Chhattisgarh)	Chattisgarh Pradesh Rice Millers Association	The Federation of All India Rice Millers Associationなど	日本企業出展なし	http://www.indiacicepo.com/	2012年 来場者数:8000(うち海外100) 出展社数:150(うち海外20) 展示面積:8000sq.m.	穀物製粉業界に特化した展示会。	2年に1回	米・小麦粉・機械・製粉ノット機械、サイロ、倉庫・包装材料・機械	
22	INDIA INTERNATIONAL TRADE FAIR	2015年11月14日～27日	Delhi	India Trade Promotion Orgaization (ITPO)	インド中央政府、各州政府	Kubota(2015年)	http://www.iitf.in/	2014年 来場者数:40000 出展社数:6,800(うち海外299) 展示面積:94300sq.m.	大規模なインド見本市であり、インド各州がパビリオンを設け、特産品を展示。	毎年	消費財、工業製品全般	アフガニスタン

【展示会紹介】

- ・ 上記展示会より一部を抜粋し、展示内容等を紹介する。

① 第30回インド国際食品&ホスピタリティフェア (Aahar 2015)

- ・ 2015年3月10日～14日、5日間開催。ニューデリーで毎年開催される大規模な食品展示会。一般消費者も数多く訪れる。食品以外にレストラン、ホテルを狙った調理器具や寝具、電化製品などの展示会（別ホールにて）も同時に開催される。
- ・ 主な出展企業はインド大手のHULの他、ネスレ、デルモンテなど、インドに古くから参入する外資系食品加工会社。
- ・ 国単位でのパビリオンも出展され、日本（JETRO 主催）の他、アメリカ、カナダ、ポーランドも出展。
- ・ 日本ブースには、キッコーマン、チョーヤ等、計9企業が出展。そのほか単独で味の素、本部三慶が出展。
- ・ JETRO ブースではアルコール飲料の試飲や栄養補助食品のサンプル配布など、実際の商品を試してもらう手法で多くの来客を集めた。日本食自体が珍しいため、各ブースには商品説明を求める客で人だかりができていた。日本食レストランやホテル関係者もブースを訪問。国単位の出展の中で、日本ブースは最優秀展示国として表彰された。

【概要】

展示会名	第30回インド国際食品&ホスピタリティフェア (Aahar2015)
会期	2015年3月10日(火)～14日(土) (5日間)
開催地	ニューデリー、インド
会場・規模	Pragati Maidan、展示面積 20,000 平方メートル
取扱品目	食品／飲料、酒類、食器、調理機械、アパレル、寝具等
入場資格・方法	資格：ビジネス関係者および一般関係者 方法：主催者宛て申込み、当日入場登録 入場金額：無料
言語対応	英語、ヒンディー語
主催・連絡先	India Trade Promotion Organization URL： http://www.aaharinternationalfair.com/index.php#join_form2
協賛	インド政府 (Ministry of Food Processing、Agricultural & Processed Food Product Export Development Authority)

協賛国	なし
-----	----

【主な出展企業】

出展企業：インド	Hindustan Uniliver、Mala's、Sunrise、Proto、Morde など
出展企業：外資	ネスレ、デルモンテなど ポーランド、米国、カナダ（国単位で出展）
出展企業：日本	JETRO ブース内には以下9企業が出展（チョーヤ、キッコーマン、共栄社 K HOUSE、みて、扇屋食品、えみの和、マリンフード、GRA） 個別出展は味の素、本部三慶株式会社など
出展社数	約800社
来場者数・主な来場者の傾向（観察）	ビジネス関係者（ホテル、レストラン、輸入業者など）、一般参加者（家族連れ、学生など） ※会期5日間で、10時～14時はビジネス関係者のみ、14時～18時は一般参加者にも開放。調理実演は主婦層や学生の見学も多く見られた。

【会場の様子】



【日系企業出展ブース（JETRO内）】

企業名・国	チョーヤ梅酒株式会社	扇屋食品株式会社
展示内容・品	梅酒	チーズスナック、子魚スナック
商談ツール	実物試飲、パンフレット	試食、パンフレット
ブース内容	梅酒の試飲を実施。飲み方などの基本的情報を求める来場者が多かった。酒類のため女性客は少なく、男性やビジネス関係者が大半だった。	スナック（おつまみ）の試食を実施。高級小売店やホテル関係者の来場が大半だった。健康面で子供に食べさせたいという母親の一般来場者も多かった。

企業名・国	共栄社 K・HOUSE	みて株式会社
展示内容・品	マヨネーズ・醤油等の調味料	緑茶
商談ツール	実物展示、パンフレット	実物展示、パンフレット
ブース内容	豆腐をその場で調理し、自社の醤油をかけて試食させ、商品説明。調味料にはレストラン関係者の引き合いが多かった。	緑茶の実物を展示し、商品説明。関税がかかるため国内産の2-3倍はする商品だが、香りのよさに説明を求める客が絶えなかった。

企業名・国	株式会社えみの和	マリンフード株式会社
展示内容・品	青汁等の栄養補助食品	チーズ、マーガリン等の乳製品
商談ツール	実物展示、パンフレット	実物展示、パンフレット
ブース内容	実物を展示、パンフレットで商品説明。サンプルも配布、コラーゲンや青汁といった商品には特に女性が多く説明を求めている。	実物を展示し、パンフレットと共に商品説明。チーズは試食も行った。ビジネス、一般客共ににぎわっていた。



出展日本企業の様子。左) チョーヤ、右) えみの和

【他国ブース】

企業名・国	カナダ
展示内容・品	メープルシロップクッキー、リンゴ、アイスワインなど
ブース広さ	50 平方メートル
スタッフ（観察結果）	コンパニオン 2 名、スタッフ 15 名
商談ツール	パンフレット、商品
ブース内容	商品は実物を展示。ブースの商談スペースでビジネス面談を行う。



企業名・国	ポーランド
展示内容・品	ジャム、ワイン、パスタ等乾麺 など
ブース広さ	50 平方メートル
スタッフ（観察結果）	コンパニオン 2 名、スタッフ 10 名
商談ツール	パンフレット、商品
ブース内容	商品は実物を展示。ブースの商談スペースでビジネス面談を行う。



② 第7回国際農業資材展示会 (Agri Tech India 2015)

- ・ 2015年8月21日～23日の3日間、バンガロールにて開催。南インド最大級の複合農業展示会。トラクターや物流車といった大型の農業機械の他、農機具や農薬といった関連商品が展示、販売された。
- ・ 協賛国として、トルコ、オランダ、ドイツ、イタリア、台湾、中国、カナダが参加。最も統一感のあったのはカナダであり、複数企業を1つのブースに集積させることで集客を狙った。
- ・ 日本企業はIshida India、Isuzuが出展、日本の最新技術を紹介した。
- ・ 当展示会と同時に、食品加工および包装事業に特化したIndia Foodex、穀物産業に特化したGrainTech Indiaなど、農業をさらに細分化した業種ごとの展示会が計8種類同時に開催された。業種を細分化することで、ターゲットに標的を絞った来場者の集客が可能となり、具体的な商談につながる展示会を意図していると思われる。

【概要】

展示会名	第7回国際農業資材展示会 (AgriTech India) (India Foodex など他8展示会が同時開催)
会期	2015年8月21日(金)～23日(日) (3日間)
開催地	バンガロール、インド
会場・規模	Bangalore International Exhibition Center (BIEC) 展示面積4万平方メートル(うち5千平方メートルが屋外展示会場)
取扱品目	農業機械、農業器具、農薬等
入場資格・方法	資格：ビジネス関係者および一般関係者 方法：オンラインにて受付登録、入場パスをもらう 入場金額：不明
言語対応	英語、ヒンディー語、カンナダ語
主催・連絡先	Media Today Group URL： http://www.agritechindia.com/ http://mediatoday.in/
協賛	Ministry of Agriculture、National Horticulture Mission、National Mission on Micro Irrigation など
協賛国	トルコ、オランダ、ドイツ、台湾、イタリア、カナダ、中国

【主な出展企業】

出展企業：インド	中小企業多数
出展企業：外資	トルコ、オランダ、ドイツ、台湾、イタリア、カナダ、中国
出展企業：日本	Ishida India、Isuzu India
出展社数	300 社超
来場者数・主な来場者の傾向(観察)	ビジネス関係者（農家、研究機関など）、一般参加者（家族連れ、学生など）

【会場図・日本企業ブース】



【各国ブース】左上より時計回りに カナダ、オランダ、トルコ、中国



【同時開催展示会】

展示会名	業種
India Foodex	食品加工、包装技術
DairyTech India	酪農、乳製品
Poultry & Livestock Expo	畜産、養鶏および加工
Flora Tech India	園芸、花卉
Rural Energy India	電力（農村部電力開発）
Grain Tech India	穀類
Meat Tech Asia	食肉加工
India Food Park Expo	フードパーク

③ 第4回農業機械展示会（EIMA Agrimach 2015）

- ・ 2015年12月3日～5日、ニューデリーにて3日間開催。2年に1度開催される大規模な農業機械展示会であり、出展社数は7千を超える。トラクターや田植え機といった大型農業機械の他、農機具や農薬といった農業関連製品が展示、販売された。
- ・ 当展示会は会場が屋内と屋外の2会場に分かれており、屋外展示スペースは屋内展示と同程度の規模確保されていた。屋外展示では、各社とも大型農業機械を展示し、デモンストレーションが行われ、模擬水田を作る企業も見られた。専門機械のため、試乗体験を行っているブースは少なく、エンジニアが操作し、その周りに来場者を集める、という手法が多かった。
- ・ Agritech同様、国を挙げての展示もいくつかみられ、その中でも目立ったのは中国、60社以上が出展し、インド商品の1/3の価格、20%安い、といった具体的な価格優位性を提示し、交渉にあたる企業が目立った。一方、ヨーロッパ企業は最新技術をアピールしており、インド国内にはない技術や機械に興味を示す再来場者も多かった。

【概要】

展示会名	第4回農業機械展示会（EIMA Agrimach2015）
会期	2015年12月3日（木）～5日（土）（3日間）
開催地	ニューデリー、インド
会場・規模	IARI、展示面積不明
取扱品目	農業機械、農業器具、農薬等

入場資格・方法	資格：ビジネス関係者および一般関係者 方法：現地にて受付登録、入場パス発行 入場金額：無料
言語対応	英語、ヒンディー語
主催・連絡先	FICCI、Feder Unacoma URL：http://www.eimaagrimach.in/
協賛	Ministry of Agriculture & Farmers Welfare Indian Council of Agricultural Research
協賛国	イタリア（Feder Unacoma）

【主な出展企業】

出展企業：インド	中小企業多数
出展企業：外資	中国（国単位で出展）、イタリア、エジプト
出展企業：日本	KUBOTA、Yanmar、Taiyo、Sona KOYO、HONDA
出展社数	7千社超
来場者数・主な来場者の傾向（観察）	ビジネス関係者（農家、研究機関など）、一般参加者（家族連れ、学生など）


【会場の様子】




【日系企業出展ブース】

企業名・国	Yanmar	 
展示内容・品	農業用機械	
ブース広さ	200 平方メートル	
スタッフ（観察結果）	日本人スタッフ 3 名、インド人スタッフ 30 名（うちコンパニオン 3 名、営業スタッフ 25 名、実演スタッフ 3 名）	
商談ツール	パンフレット、商品展示、実演	
ブース内容（観察結果）	田植機を複数台屋外展示。うち 2 台は模擬水田で実演を実施し、マイクを使用し商品説明。スタッフは会社ロゴ入りのポロシャツを着用。	

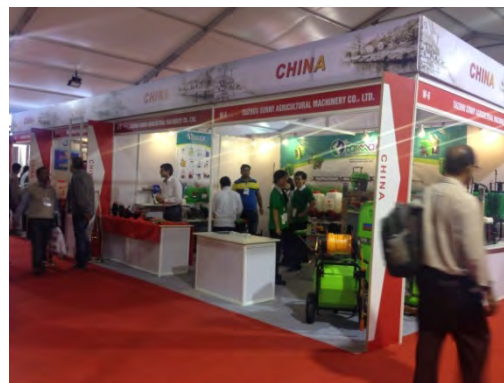
企業名・国	Kubota	 
展示内容・品	農業用機械	
ブース広さ	80 平方メートル	
スタッフ（観察結果）	スタッフ 10 名（コンパニオン 2 名、営業スタッフ 8 名）	
商談ツール	パンフレット、商品展示	
ブース内容（観察結果）	トラクターを 4 機屋内展示。ブース内に応接セットを設営し、商品説明。スタッフは黒スーツを着用。	

企業名・国	Honda・日本	
展示内容・品	農機具	
ブース広さ	40 平方メートル	
スタッフ（観察結果）	スタッフ 6 名	

察結果)		
商談ツール	パンフレット、パネル展示、商品展示	
ブース内容 (観察結果)	農機具を複数台屋内展示。パンフレットと展示物を用いスタッフが商品説明。	

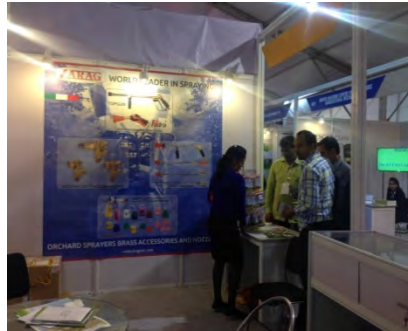
【他国ブース】

企業名・国	中国（60社超がパビリオンを組織）
展示内容・品	農業機械、道具、農薬など
ブース広さ	200平方メートル
スタッフ（観察結果）	コンパニオン2名、スタッフ10名
商談ツール	パンフレット、商品
ブース内容（観察結果）	商品は実物を展示。ブースの商談スペースでビジネス面談を行う。



企業名・国	イタリア（5社程度がパビリオンを組織）
展示内容・品	農業器具（スプレー）など
ブース広さ	50平方メートル
スタッフ（観察結果）	スタッフ10名（各社2名程度）
商談ツール	パンフレット、商品
ブース内容（観察結果）	商品は実物を展示。ブースの商談スペースでビジネス面談を行う。

果)	う。
----	----



企業名・国	エジプト（3社程度がパビリオンを組織）
展示内容・品	穀物種子など
ブース広さ	20 平方メートル
スタッフ（観察結果）	スタッフ 3 名
商談ツール	パンフレット、商品
ブース内容（観察結果）	商品は実物を展示。ブースの商談スペースでビジネス面談を行う。食品販売も実施。



④ 第 35 回インド国際貿易フェア (IITF 2015)

- ・ 2015 年 11 月 14 日～27 日、ニューデリーにて 14 日間開催。毎年開催される、あらゆる商品が展示・販売されるインド最大級の貿易フェア。来場者は 2014 年度実績で 100 万人以上。Exclusive business days (ビジネス関係者のみが入場可) が 14 日～18 日、19 日以降が Public Day となっており、Public Day には大勢の一般消費者が訪れる。
- ・ 当展示会は農水産物に限定されたものではないが、インド政府や企業が輸出目的で出展を行っており、州政府はそれぞれパビリオンを持ち、各州の特産品を使った加工食品や乳製品、穀物などが紹介。
- ・ その他食品関連では輸出用のスパイスやナッツなどの農産品の出店が目立った。そのほか機能性油やインスタント食品など、現代のニーズをとらえた商品が並んだ。2015 年の協賛国であるアフガニスタンの他、イラン、インドネシアも国単位で展示、食品は調理実演や試食などの方法でブースに人を集めた。
- ・ 2015 年はインド農業・農民福祉省の傘下である農業協力および農家福祉局 (The Department of Agriculture, Cooperation and Farmers Welfare) が、「Technology for Future Agriculture」というテーマで参加し、そこに農機具メーカー等が出展を行った。

【概要】

展示会名	第 35 回インド国際貿易フェア (IITF2015)
会期	2015 年 11 月 14 日 (土) ～27 日 (金) (14 日間)
開催地	ニューデリー、インド
会場・規模	Pragati Maidan、展示面積 20,000 平方メートル
取扱品目	繊維、塗料、陶器、家電製品、コンピューター、宝石、化粧品、ヘルスケア食品／飲料、手工芸品、革製品、農業機械 等
入場資格・方法	資格：ビジネス関係者および一般関係者 方法：現地にて当日券購入 (当日限り有効) 入場金額：ビジネス関係者 400 ルピー (14 日～18 日)、一般 50 ルピー (19 日～27 日)
言語対応	英語、ヒンディー語
主催・連絡先	India Trade Promotion Organization

	URL : http://www.iitf.in/
協賛	インド中央政府、各州政府
協賛国	アフガニスタン

【主な出展企業】

出展企業：インド	中小企業多数
出展企業：外資	イラン、アフガニスタン、インドネシア（国単位で出展）
出展企業：日本	KUBOTA
出展社数	7千社超
来場者数・主な来場者の傾向(観察)	ビジネス関係者（農家、研究機関など）、一般参加者（家族連れ、学生など）

【会場の様子】



【日系企業出展ブース】

企業名・国	Kubota
展示内容・品	農業用機械
ブース広さ	80平方メートル
スタッフ（観察結果）	スタッフ2名
商談ツール	パンフレット、商品展示
ブース内容（観察結果）	トラクターを2機屋外展示。試乗体験を実施し、商品説明。スタッフは会社ロゴ入りのポロシャツを着用。



【他国ブース】

企業名・国	アフガニスタン
展示内容・品	ナッツ、スパイスなど
ブース広さ	100平方メートル
スタッフ（観察結果）	スタッフ30名
商談ツール	パンフレット、商品
ブース内容（観察結果）	商品は実物を展示。ブースの商談スペースでビジネス面談を行う。食品販売も実施。



企業名・国	インドネシア
展示内容・品	即席麺、ナッツ、クッキー菓子など
ブース広さ	80平方メートル
スタッフ（観察結果）	コンパニオン2名、スタッフ10名
商談ツール	パンフレット、商品
ブース内容（観察結果）	商品は実物を展示。ブースの商談スペースでビジネス面談を行う。調理実演、食品販売も実施。



企業名・国	イラン
展示内容・品	ナッツ、スパイスなど
ブース広さ	100平方メートル
スタッフ（観察結果）	スタッフ30名
商談ツール	パンフレット、商品
ブース内容（観察結果）	商品は実物を展示。ブースの商談スペースでビジネス面談を行う。食品販売も実施。



3) 食関連事業インド進出における展示会の活用への提言

- ・ 上述のように、インドでは様々な農水産業・食品関連の展示会が開催されており、政府や関係団体が支援する展示会も少なくない。国土の広いインドで、販路の開拓やパートナー・提携先探索など、非常に労力がかかるところを、業種ごとに企業が集積する展示会もその活動方法の一つの選択として、非常に有望かつ有効なものと思われる。
- ・ しかしながらその実態を見ると、インド政府・業界団体の支援する展示会においても、まだ日本企業の出展は少なく、一部の農業機械等に限られている。一方他国に目を向けると、ヨーロッパ、近隣アジアや中東諸国、東アジアでは中国、韓国も国を挙げての出展をしているケースが複数見られ、中にはドイツ、イタリアなど、展示会の主催になっている国もあり、展示会を大いに活用している姿がうかがえる。
- ・ 各国が企業単位ではなく、国単位で出展しているケースも比較的多くみられた。2015年のAaharでは、JETROが日本パビリオンを企画し、日本の食品等を複数社が展示することで集客に成功しており、こういった企業を束ねた形での出展は、ある程度の規模・広さが確保することで会場内でのプレゼンスが高まることと、出展する商品等のバラエティも豊富になるため、来場客の興味を集めやすい。また、パビリオン内に共通のビジネスマッチングデスクを設けることで、個別商談も可能となる。1社でそういった場所を確保するより手ごろな運用も実現でき、効果的ではないか。
- ・ ただし、展示会によっては来場者が少ない、もしくはビジネス関係者の来訪があまり期待できないものも存在するが、各展示会は過去実績を公開しており、そういった資料に基づき数多くの展示会の中から、ふさわしい展示会を選定し、出展を検討するのも一つの手であろう。

2. 他国企業等のインド進出動向調査

1) 各国の活動状況

- ・ インドにおける、農林水産・食品分野への、過去 2 年以内の日本以外の海外企業の進出状況を把握するため、他国のインドに対する活動を以下の 2 つの視点から取りまとめたものが下表である。
 - ① 国や公的団体が自国の企業を取りまとめた行った活動（企業単独は含まない）
 - ② アンドラプラデシュ州において行われた事業進出や企業幹部・使節団の往訪
- ・ なお、直近 2 年では数も限られるため、期間は 2013 年 4 月～2016 年 2 月までとした。

【アメリカ】

二国間政策対話	2014 年 11 月：インド商工省大臣と米通商代表部次官がインドで面談。国際食品規格委員会（CODEX）や国際獣疫事務局（OIE）、国際植物防疫条約（IPPC）といった <u>国際基準を順守した上での食品の輸出入取引、食品安全保障問題解決への相互協力を約束。</u> ¹
インド各州への農業支援	2015 年 1 月：アメリカ合衆国国際開発庁（USAID）は、インドの食糧安全保障活動の一環として、インド 3 州（州名不明）の数千の農家に対し、 <u>新しい農具を導入したことで、収穫量の 50%アップ、生産コスト 3 分の 1 削減を実現。</u> また、カルナタカ州の農家に点滴灌漑を導入。ポンプ稼働回数を 4 分の 1 に削減し、数千の農家の生産コストを 3 分の 1 削減、生産量が 50%アップした。 ² ※ USAID は、インドにおいて、1) 健康増進、2) 環境保全、3) 教育推進、4) 食糧安全保障 の四つの活動をインドで実施しており、上記活動は 4) 食糧安全保障の一環として実施されたもの。
A P 州スリ・シティ工業団地への進出	2013 年 8 月、米系の菓子・飲料大手キャドバリー・インディア社が工場新設の MoU を締結。敷地面積は 134 エーカーで、アジア最大級となる予定。 <u>操業開始は 2020 年、1,600 人の雇用が見込まれている。</u> ³ 2015 年 1 月、A P 州投資促進委員会は、米系の食品・飲料大手ペプシ

¹

<https://ustr.gov/ustr.max.gov/about-us/policy-offices/press-office/press-releases/2014/November/India-and-US-Joint-Statement-On-the-trade-policy-forum>

² <http://www.usaid.gov/india/our-work>

<http://www.usaid.gov/results-data/success-stories/drip-irrigation-helps-farmers-save>

³ <http://www.sricity.in/media/press-18.html>

	<p>コ・インディアやキャドバリー・インディアを含む大型投資計画 6 件を承認した。ペプシコ・インディアは 120 億ルピー、キャドバリー・インディアは 250 億ルピーの投資額。この 6 件による投資総額は合計 650 億ルピーにのぼり、新規雇用創出数は計 1 万 8,500 人に達する見込み。⁴</p> <p>2015 年 4 月、ペプシコ・インディアが工場開設のセレモニーを実施。フルーツベースの飲料や炭酸飲料、スポーツドリンクなどを生産する。生産ラインは全稼働すると 9 ラインとなる。⁵</p>
<p>A P 州首相との面談(食品および流通)</p>	<p>2015 年 4 月、米大手スーパーマーケットチェーン ウォルマート・インターナショナルの CEO が、ナイドゥ A P 州首相を訪問。A P 州の農産品調達に関して相互協力することとなった。2 者は、ウォルマート・インディア上層部と A P 州農務長官 (Special Chief Secretary) で構成される特別委員会 (タスクフォース) の設立に合意。当委員会では、3 か月ごとに決定事項とアクションプランのレビューを行う。</p> <p>ウォルマートは今後 5 年間で A P 州にキャッシュ&キャリー店を 15 店舗新設。現在カシュ、レッドチリ、スイートライム、ココナッツを A P 州から仕入れているが、この相互協力の中で、さらに他の農産物の調達の可能性も検討し、A P 州政府はコールドチェーン構築によるサプライチェーンのギャップを埋めるためのサポート、ならびに輸出港の提供を行う。ナイドゥ A P 州首相は「この活動により、A P 州を農産物調達の世界的ハブにしていくことも夢ではない」と語った。⁶</p> <p>なお、<u>2016 年 1 月 10～12 日に A P 州ヴィジャカパトナムで開催された「第 22 回パートナーシップサミット」</u>において、<u>A P 州はインド初の小売政策を発表、2020 年までに少なくとも 500 億円の投資を期待しており、その中で、ウォルマートはインドの大手流通であるフューチャーグループ、リライアンス、Arvind と並び、大規模小売店舗の設立とそのための大型投資を行うという覚書を交わした。</u>⁷</p>

4

<http://www.thehindubusinessline.com/news/national/pepsi-cadbury-proposals-among-6-projects-worth-rs-6500-cr-cleared-by-ap-investment-board/article5593704.ece>

5

<http://www.businesstoday.in/current/corporate/pepsico-commissions-its-largest-indian-facility-in-andhra-pradesh/story/217686.html>

6

<http://www.livemint.com/Industry/nWUd9HBqG56wLJ9mOPTGaN/Andhra-Pradesh-Walmart-form-task-force-for-sourcing-agric.html>

7

<http://economictimes.indiatimes.com/news/economy/policy/andhra-pradesh-becomes-first-state-to-unveil-retail-policy/articleshow/50539962.cms>

展示会への出展 (国単位)	India Cold Chain Show (2015年12月16-18日)
------------------	--

【オランダ】

官民ミッション	<p>2015年6月に、モディ首相の招待によりオランダ首相が訪印。二国間対話をデリーにて、ビジネスマッチングをムンバイにて実施。参加者はオランダ経済大臣、農業大臣と100社を超える民間企業と大規模なもの。</p> <p>二国間対話では、すでに二国間で行われている経済合同委員会及びMoUに基づき、船舶輸送、都市開発、科学技術、健康、再生エネルギー、農業、スポーツの各分野での二国間の協力の強化を約束した。農業分野では、MoUをさらに3年間延長して継続することが決定。中核研究拠点をケララ州、マハラシュトラ州(野菜及び花卉)、パンジヤブ州(ジャガイモ及び花卉)に設置し、コールドチェーン分野では、オランダのコンソーシアムと米大手流通フューチャーグループが提携して行うことが決まった。⁸</p> <p>※ オランダは、インドとの農業分野の官民パートナーシップに積極的であり、2012年5月締結のアクションプランでは10州に研究施設を作り、インド地場のリソースでオランダの知識を導入できるよう支援している。</p>
AP州訪問	2015年10月：オランダ大使がオランダ企業30社の企業幹部を引き連れ訪印。食品加工、物流、製菓の分野での連携を協議。 ⁹
展示会への出展 (国単位)	<p>第10回 Anutec International FoodTec (2014年11月14-16日)</p> <p>第7回 AgriTech India (2015年8月22-24日)</p> <p>第5回 Agro Protech (2015年11月19-21日)、※パートナー国として参加</p>

【ドイツ】

⁸ http://india.nlembassy.org/Doing_Business/news/2015/06/india-netherlands-joint-communicue.html

⁹ <http://india.nlembassy.org/news/2015/10/dutch-ambassador-heads-visit-to-andhra-pradesh-and-telangana.html>

<http://india.nlembassy.org/doing-business/sectors--opportunities/agrofood.html>

<p>二国間政策対話</p>	<p>2015年10月5日、第3回印独政府間会議（India Germany Inter-Governmental Consultations）を首都デリーにて開催。モディ首相と独メルケル首相が、独インドの戦略的パートナーシップで合意したほか、官民合わせ計18件の協定を結んだ。</p> <p>農林水産・食品業関連では、農業、食品加工・消費者保護に関する二国間ワーキンググループにおいて、消費者保護、食品の安全性と植物保護問題に関する協力活動に注力することに合意し、両国の関係当局間のより緊密な協力のもと、種苗開発プロジェクトを継続することを発表。また、両首脳は、農業分野での育成トレーニングやスキル向上について合意し、最新農業技術センターの設立に関し、民間部門の協力を求め、さらに“One World – No Hunger”イニシアティブの下活動することを相互に歓迎した。</p> <p>その他、German Agribusiness Alliance が ASCI (Agriculture Skill Council of India) 農業研究で協働する覚書を締結。農業農民福利厚生省 (Ministry of Agriculture and Farmers' Welfare) とドイツ連邦消費者保護・食品安全庁 (BVL) が植物検疫に関して共同声明を、またインド食品安全基準局 (FSSAI) が、ドイツ連邦リスク評価研究所 (BfR)、BVL それぞれと食品安全に関して共同声明を発表した。¹⁰</p>
<p>A P州進出</p>	<p>2015年8月、産業ガス・エンジニアリング大手の独リンデ・グループは、<u>A P州の漁業関連エリアに2億米ドル規模の投資を行う</u>。同州は漁業が盛んで、同社の食品の極低温冷凍を用いた海産物の冷凍加工と輸出向けの高付加価値食品加工の2分野が焦点になるとみられる。同社はすでにグジャラート州に拠点をもち、次の進出先としてA P州に強固な拠点を作りたい考え。¹¹</p>
<p>展示会への出展 (国単位)</p>	<p>第10回 Anutec International FoodTec (2014年11月14-16日) 第7回 AgriTech India (2015年8月22-24日) Drink Technology/International Pack Tech India (2014年9月25-27日) ※展示会主催国</p>

【イギリス】

¹⁰

[http://mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/21722/List of documents signed during the State Visit of Chinese Li Keqiang to India May 1922 2013](http://mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/21722/List_of_documents_signed_during_the_State_Visit_of_Chinese_Li_Keqiang_to_India_May_1922_2013)

¹¹

http://www.business-standard.com/article/pti-stories/germany-s-linde-group-mulls-200-mn-investment-in-ap-115082200413_1.html

事業進出	2013年10月、英製薬大手グラクソ・スミスクライン（GSK）傘下のグラクソ・スミスクライン・コンシューマー・ヘルスケア（GSKCH）が、「ブースト」ブランドの新製品「ブーストNRGビスケット」を、 <u>AP州を含む南部市場に投入した。高級ビスケットの位置付けで、販売価格は75グラム入り1パック18ルピー、150グラム入り35ルピー。南部のチョコレートビスケット市場は24億ルピー規模。年率58%のペースで拡大しているという。</u> ¹²
展示会への出展 （国単位）	SugarAsia（参加回不明） India Cold Chain Show（2015年12月16-18日）

【オーストラリア】

政府高官、企業幹部のAP州往訪	2015年6月24日、スティーブン・チオボー・オーストラリア外務政務次官兼貿易・投資政務次官率いるオーストラリア派遣団がAP州を訪問し、ナイドゥ首相と面談。 <u>農水産・食品関連では、農産物加工および漁業に関する二国間協働を模索。その他鉱業分野においてインド・オーストラリア企業間で覚書を締結、教育、製薬などの分野でも協議。ナイドゥ首相は来る10月にヴィンヤカパトナムで開催される「Sunrise AP Global Investment Summit」に、オーストラリアからの派遣団を招待。</u> ¹³
-----------------	---

【中国】

二国間政策対話	2013年5月19～22日、李克強國務院総理がインドを公式訪問。総理就任後初の外遊であり、インドの他パキスタン、ドイツ、スイスも訪問。 <u>様々な覚書の締結が行われ、農林水産・食品関係では、1）水牛肉、水産物および飼料とその原材料に関し、中印2国間貿易および安全性確保のための相互協力の強化、および検疫制度に関する覚書、2）農業における効率的な水源利用のためのシステム導入、ベストプラクティス（最適実施例）の交換などに関する覚書を締結。</u>
インド使節団の中国派遣（AP州）	2015年4月、ナイドゥ州首相が率いる経済使節団が中国を訪問、中国国際貿易促進委員会ならびに中国複数企業と計13件の覚書を締結した。農林水産・食品関連では、中国最大規模の農牧企業であり、飼料畜産インテグレーションを手掛ける新希望六和股份有限公司（New Hope Liuhe Company）と覚書を締結した。 ¹⁴

¹² <http://www.thehindubusinessline.com/companies/gsk-boost-for-south-to-launch-biscuits/article5237457.ece>

¹³ <http://www.ap.gov.in/press-release/Australia%20delegation%20meeting%20-%202024-6-2015.pdf>

¹⁴ <http://www.deccanchronicle.com/150413/nation-current-affairs/article/andhra-pradesh-build-mou-bridges-china>

展示会への出展 (国単位)	第 10 回 Anutec International FoodTec (2014 年 11 月 14-16 日) 第 7 回 AgriTech India (2015 年 8 月 22-24 日) EIMA Agrimach India 2015 (2015 年 12 月 3-5 日)
------------------	--

【ベトナム】

二国間政策対話	2013 年 11 月 18 日、ベトナム首相の訪印に合わせデリーで開催された India-Vietnam conference における二国間政策対話。順調な二国間貿易を確認し、2020 年の目標 150 億 US ドルを達成するべくさらに農業も含めた各種産業にて協力を強化することを宣言。 農水産および畜産分野では、インド農業研究委員会 (ICAR) とベトナム農業科学院 (VAAS) が、インド国内の <u>パンガシウス (魚) の養殖場建設のベトナム側の支援、えび養殖における早期死亡症候群 (EMS) についての積極的な両国の情報交換を約束した。</u> ¹⁵
二国間政策対話	2014 年 9 月 15 日、ムカジーインド大統領のベトナム訪問において、7 つの覚書が締結された。そのうち農業分野では、インド農業省とベトナム農業農村開発省との間で、畜産および繁殖のために輸出入される <u>動物の病気・感染源の侵入から守るための協力関係を構築する覚書</u> を交わした。そのほか、 <u>食肉加工や屠殺の技術交換、人材育成のための人材交流やワークショップ、スタッフのトレーニングなどを積極的に行うことも盛り込まれた。</u> ¹⁶

【ASEAN】

ワーキンググループ	インドと ASEAN 各国の農林水産省の共同研究機関。2011 年に発足、年 1 回、国際会議で研究結果を発表している。 2011 年～2015 年の中期計画における実施活動内容は、 <u>ハイブリッドライス、水質改善、動物の越境性感染症の防疫、害虫対策</u> など。 ¹⁷
-----------	--

¹⁵

[http://mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/22510/Joint Statement on the occasion of the State Visit of the General Secretary of the Communist Party of Vietnam to India](http://mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/22510/Joint_Statement_on_the_occasion_of_the_State_Visit_of_the_General_Secretary_of_the_Communist_Party_of_Vietnam_to_India)

¹⁶

[http://mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/23996/AgreementsMoUs signed during the State Visit of Honble President to Vietnam 15 September 2014](http://mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/23996/AgreementsMoUs_signed_during_the_State_Visit_of_Honble_President_to_Vietnam_15_September_2014)

¹⁷ <http://dare.nic.in/node/55>

ASEAN 首脳会議	2016年11月21, 22日にマレーシアで開催されたASEAN首脳会議において、両閣僚は、ASEAN-India Cooperation in Agriculture (2011-2015)の中期計画アクションプランの進捗を確認。農林業分野でのASEAN・インドの連携が2011年以降顕著な進展を見せており、食糧安全保障及びIT活用の研究開発による業界発展への寄与、および人材育成の強化のために、これまでに様々な活動が行われてきたことを相互に確認した。 ¹⁸
------------	---

【イスラエル】

農業支援	2015年1月、イスラエル農業省大臣がモディ首相と食品加工省大臣とインドにて面談。Indo-Israel Agricultural Cooperation Project (IIAP)の第3期事業の続行で合意 IIAPは2008年に設立。イスラエルの最先端農業技術でインドの農家を支援する目的。 <u>農作物を穀物から野菜に、畑から温室栽培に、ドリッピングイリゲーションを導入等。</u> イスラエルの技術導入で野菜農家は3年後に収穫量が6~12倍に、マンゴー農家は3倍に上昇。穀物栽培から野菜栽培への切り替えで <u>年収は10倍に増加</u> 。現在研究施設はハリヤナ、マハラシュトラ、ラジャスタン、UP、グジャラート、ビハール、カルナタカ、パンジャブ、タミルナド、西ベンガル各州に拠点あり。今後はテラングアナ州、AP州、北東部にも新設する計画。 ¹⁹
------	--

【その他国の二国間政策対話状況】

リベリア	2013年9月9-13日、リベリア共和国のエレン・ジョンソン・サーリーフ大統領率いる派遣団がインドを訪問。各省庁の政府高官が参加し、食品加工の他、ICT、化学、医療といった分野での二国間協力のための覚書を締結。 ²⁰
------	---

¹⁸

<http://www.asean.org/wp-content/uploads/images/2015/November/asean-india/Overview%20ASEAN-India%20Dialogue%20Relations%20-%20November%202015.pdf>

¹⁹

<http://economictimes.indiatimes.com/news/economy/agriculture/agricultural-ties-with-israel-helping-indian-farmers/articleshow/45265558.cms>

http://articles.economictimes.indiatimes.com/2015-01-12/news/57983167_1_third-phase-israeli-agriculture-minister-india-and-israel

http://mfa.gov.il/MFA/mashav/Publications/Subject_Publications/Documents/Indo-Israeli%20Agricultural%20Project.pdf

²⁰

http://mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/22190/Joint_Statement_on_the_Visit_of_President_of_Liberia_to_India

スリランカ	2015年2月16日、スリランカ大統領がインド訪問。その際に4件の覚書を締結。そのうち農水産・食品関連では、 <u>農産物加工、農業拡大、園芸、農業機械、農業機械化促進のためのトレーニング、家禽類の傷病研究</u> などを二国間で共同して行う <u>Work-Plan 2014-2015</u> を締結。 ²¹
ミャンマー	2015年7月16日、第1回インド・ミャンマー共同協議委員会が開催。スワラージ・インド外務大臣とワナ・マウン・ルイン・ミャンマー外務大臣が会談。インドにより5億米ドルに引き上げられた融資による、農業や灌がい設備を含む、 <u>ミャンマーのインフラ整備の進捗報告を実施</u> 。また、ミャンマー国内での先進農業教育研究センター、 <u>Rice Bio Park</u> を含む、研究教育施設の設定についても協議が行われた。 ²²
フィリピン	2015年10月14日、アルバート・デル・ロサリオ・フィリピン外務大臣がニューデリーを訪問。スワラージ・インド外務大臣と対談し、 <u>農業分野での協働を協議</u> 。その他再生可能エネルギー、医療産業の協議も行われた。 ²³
ノルウェー	2015年11月2日～3日、ノルウェーの外務大臣 (Mr. Borge Brende) がニューデリーを訪問。11月2日開催の <u>India- Norway Joint Commission Meeting</u> に参加し、二国間貿易、漁業、インフラ、人材開発などについて協議。 <u>特に漁業はオキアミ漁 (Krill Fishing)、マス漁 (Trout Fishing)、水産養殖の分野で活発な技術・意見交換が行われた</u> 。 ²⁴

- ・ 各国の動きを全体的に俯瞰すると、アメリカ、オランダ、ドイツそして ASEAN 諸国の活動が目につく。二国間の活動で共通しているのは、農水産関連の研究開発と技術支援であり、2012年以前からワーキンググループ、人材交流などが実際に行われ、オランダ、ドイツなどはインドに共同研究施設や技術センターを設立し、民間も含めた活動が行われている模様。
- ・ テーマは様々だが、食糧安全保障関連が多く見受けられるほか、自国の得意分野 (オランダ＝花卉、ベトナム＝エビ養殖など漁業関連)における技術支援に力を

²¹ <http://www.mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/24779>

²²

http://mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/25485/Joint_Statement_by_India_and_Myanmar_on_First_Meeting_of_the_IndiaMyanmar_Joint_Consultative_Commission

²³

http://mea.gov.in/bilateral-documents.htm?dtl/25930/Joint_Statement__Third_IndiaPhilippines_Joint_Commission_on_Bilateral_Cooperation

²⁴ http://mea.gov.in/press-releases.htm?dtl/25991/5th_Session_of_India_Norway_Joint_Commission_Meeting

入れている国も多い。オランダは特に農業分野の官民パートナーシップに積極的であり、インド 10 州に研究施設を持つ。

- ・ アメリカ、オランダは食品加工にとどまらず、コールドチェーンや流通にも目を向け投資を行っている。アメリカは、ウォルマートが農産品調達のために A P 州との特別委員会を構成し、国内外への農産品および食品のサプライチェーンの可能性を広げる活動につなげようとしている。オランダはコールドチェーン分野でインド大手流通グループであるフューチャーグループとの提携など、農水産品および食品が消費者の手に届くまでのすべての過程をカバーする取り組みを行っている。
- ・ A P 州については、アメリカが企業レベルで積極的な動きを見せている。アメリカは、インド初のメガフードパークであるスリニ・メガ・フードパークに、大手食品・飲料メーカーが先陣を切り工場を建設、大規模投資が進んでいる。また、流通面においても A P 州に対しウォルマートが働きかけをしており、2016 年 1 月に A P 州が、インドで初めて小売政策を発表した州となったのは、その働きかけも少なからず影響しているのではないだろうか。
- ・ A P 州へは、オーストラリア、中国がいずれも 2015 年に視察団を派遣。これらは 2014 年の A P 州からのテランガナ州の分離・独立を受け、A P 州の新州都建設等で招聘されたのではないかと思われ、視察団自体は農水産食品分野に限定したものではないが、当分野に関しては食品加工や漁業、畜産関連で A P 州企業と各国企業間で覚書の締結が複数行われた。

2) インド政府・団体における評価と期待（インタビュー結果まとめ）

インタビュー対象者

州・ 連邦直轄州	団体名	役職
デリー	ASSOCHAM	Director
	FICCI	Sr. Asst. Director
A P州	CII	CII head
	FTAPCCI ²⁵	Sr. Vice President- Food processing

【他国の農水産食品分野での活動について】

- ・ 漁業分野にはアメリカ、EU の他、アジア諸国も進出・出資しているが、農業分野になると、アメリカ、オランダ、ドイツといった前章で活動が数多くあげられた国と中国、食品加工になると、アメリカと欧米諸国に限定されるのが現状の様。
- ・ 中東は自国が農業に適さない気候のため、インドへ農地を求めてくる、という。
- ・ その他、具体的な内容は開示されなかったが、食品加工分野では、ケロッグやダノンといった大手食品メーカーが挙げられた。
- ・ 特にインドへ注力しているのはアメリカ、中国。特にアメリカは農業、食品加工いずれにも熱心という。食品加工については、特に欧米はインドの食生活を変えるほどの影響を与えており、ピザ（ピザハット、ドミノなどのチェーン）やインスタントヌードル（Maggi（ネスレ））はもはや国民食となってきた、という。
- ・ 近年では、オーガナイズドと言われる企業組織の運営するリテールが増加し、そこでパッケージフードの売上げが伸びている。これは都市化と収入向上のため、人々がより簡単で便利なものを好むようになったことが背景。それに加え、健康に留意したオーガニック食品の需要もアップミドルクラス以上を中心に注目を集めてきており、新たなニーズにあわせた食品加工など、多様化も進んでいる。

分野	積極的な活動を行っている、として挙げられた国
漁業	アメリカ、EU、ベトナム、中国、東南アジア、中東
農業	オランダ、ドイツ、アメリカ、中国、中東
食品加工	アメリカ、カナダ、EU 諸国（イタリア、フランス、ドイツ、イギリス、スイス）

【農水産・食品加工の抱える問題点】

- ・ インドでは、農産物の 30%が消費者に到達する前に廃棄されている、という問題を抱えており、食品加工およびロジスティクスへの投資が非常に期待されている。特に

²⁵ FTAPCCI = The Federation of Telangana and Andhra Pradesh Chambers of Commerce and Industry

食品加工は2008年～2015年まで年成長率8.4%と、製造業6.6%、農業3.3%に比べ大きな伸びを見せており（ASSOCHAM談）、期待値は高い。

- ・ 政府も「メイクインインディア」等、これらを支援する政策を掲げているものの、実際には直接具体的な支援にはまだなかなかつながらず、外資系企業の投資や支援への期待の声も多く聞かれた。

分野	問題点と必要な支援
漁業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 漁業機械化による乱獲で生態系が乱れ、枯渇の恐れがある。海の環境保護を考える必要がある。 ・ AP州は海産物の輸出で可能性が高く、特にエビへの期待が高い。<u>養殖のための機材や飼料などは現在、輸入に頼っている部分が大きい。</u>天候に左右されない生産支援などが必要。
農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 種苗開発や生産性の向上。<u>人材育成や農業技術の知識などの教育が必要。</u>技術支援により、モンスーンなど気候に頼った生産から、生産性の向上や安定した生産を目指す必要がある。インド政府からの開発支援は多少あるものの、まだ草稿レベルで実際の施行には時間がかかっている。 ・ 酪農については獣医の育成も必要。
食品加工	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>まだ食品加工の知識を持った人材が少ない（AP州）。</u>大学での食品加工の新コースも導入されてきてはいるが、まだその端緒に立ったばかり。<u>外資系等の参入や技術導入も必要。</u> ・ 農家で使用されている伝統的な加工技術はオペレーションコストが高くかつ生産性が低く、輸出競争力が低い。外資系がインドやAP州に工場を設立することにより、農村部の貧困層の働き口としての受け皿も増える。 ・ 食品加工については、<u>食品テストなどの知識・技術導入、CODEXをはじめとする国際基準の教育機関が特に必要。</u>そういった知識がないと国際競争力がついていかない。政府からの食品基準への支援はほとんど期待できないため、ローカル企業とそういった知識を潤沢に持つ外資を含む民間大手の協力体制が必要。 ・ 特に初期投資はお金がかかるため、政府などからの資金的援助が必要。短期ではなく10年単位の投資や研究開発が必要。 ・ また、インドの規制は複雑で、また税率も高額と障害が複数存在する。スコットランド等、海外の規制や財政支援で参考になるものも多いので、そういったものを研究し、導入していくことが効果的ではないか。

【日本企業への期待】

- ・ 日本企業を含む外資系企業へ期待するものは、農水産および食品加工全体を通して、生産力を高める技術指導および人材育成と、それに伴う資金援助である。

- ・ 日本企業のインドへの農水産食品加工関連への活動としては、イセ食品（エッグパウダー）、前川製作所（食品加工機械）、ヤクルト（生産と販売網構築）などが評価されているものの、まだ他国に比べると認知や活動が少ない、という印象を持たれている。
- ・ 特に日本ブランドは自動車や家電業界などでは品質、最新技術などで知られているものの、農業や食品分野ではまだ認知がほとんどない状況である。もし日本食品をインドで普及させたいのであれば、ブランド認知が必要とされる。また、他外資系企業がインド人のニーズや味覚に合った食品を提案している中、同様にインド市場に見合ったものを研究・開発する必要がある。
- ・ アメリカはアメリカ自身をブランドとしてのプロモーションに積極的だという。例えば「カリフォルニア・アーモンド」、「ワシントン・アップル」ということで地名を付けた農産物のプロモーションを、インドにおいて非常にアグレッシブに行っている。こういった手法を用い、日本も日本の農水産品や商品を積極的に売り込んだらどうか、という意見も見られた。
- ・ また、食品加工など工業化が進むにつれ、環境的な問題も出てくるため、環境にやさしい食品パッケージの素材や技術の提供も有効、とされた。

3) 日本企業に期待される活動

- ・ これらを踏まえると、日本企業においては、まだインド側の期待に応える余地が十分にありそうである。例えば他国が行っているような農業支援や技術指導を行うことで、日本のプレゼンスを上げていく。支援・指導を行って行く中で、インドに適した生産や運営の仕方がノウハウとして蓄積されることが期待でき、それらをサポートするインド向け機器や資材の開発・販売などにもつながって行くと思われる。
- ・ 実際に、インド政府が提唱する「メイクインインド」の一環として、日本企業に対し、AP州に食品加工工場を作ってほしい、という要望も出ている。食品加工技術のノウハウ提供による、全般的な食品加工技術の底上げだけでなく、周辺地域の雇用促進にもつながる。
- ・ 食品加工においては、CODEXなどの国際基準の研究と導入指導を行うことも効果的と思われる。これによりインド国内消費だけでなく国際的にも競争力のある生産現場に育てていくことが期待される。
- ・ しかしながら、食品基準についてはFSSAIなどインドの政府機関の動向や取り組みを定期的に知る必要があり、またそれらに対しての働きかけも非常に重要である。そこには日本政府の支援も不可欠と思われる。官民が連動することによって、より効果的な仕組みを持ち込むことができるのではないだろうか。

3. インドにおける我が国食関連産業の方向性（全体まとめ）

- ・ 日本の農水産・食品加工がインドに進出する余地はまだ大きいと言える。
- ・ しかしながら、参入には様々な課題がある。よく聞こえてくるのは複雑な税制、州による法律の違いなどといった参入障壁だが、それ以上にも数多く課題はある。下記を認識して、どういった方向に進むべきかを明確にし、インド側の理解を得ることが必要となる。
 - インド側の思惑と日本側の思惑にはギャップがある。
 - ☆ インド側は投資が欲しい一方で、日本側はインドを販売先としてとらえている
 - ☆ インド側は日本に買って欲しい（インド産品を輸出）と思っているが日本側はインドからの輸入が論点の中心にはない
 - 投資に伴う人材育成や技術指導を行うことは必要であり、それにはかなり時間を要するため、即時的な参入効果は期待しづらい。
 - 上記を踏まえると、論理的には「日本の技術」と「インドの原料（＝農産品）」の組み合わせで市場を開拓すると言うのはマッチしているが、長期的な取り組みが必要となる。
 - インドでの農産品&加工に関しても安全検査などはしているが、日本のスタンダードや品質基準まで対応できているところはほとんどないのではないかと。日本ではJAS規格などを重視するが、インドでは一般的に欧米が中心の市場であり、欧米スタンダードを摘要できていれば問題ないと考えがちと、認識の違いがある。
 - 人材育成や技術指導も必要であるとともに、日本企業のインド市場やインド企業、インド人理解の促進も必要である。
 - インド人からは「BuyBack 契約さえあれば品質向上に努力する」と言い、日本側からは「契約がない限り努力しないのはそもそもおかしい、品質向上があって初めて議論の俎上に乗る」と言うような指摘も多い。こういった双方の考え方のギャップなどを埋めていく必要もある。
- ・ 進出にあたってのポイント
 - 場所選び（自社の得意分野がどこにはまるか、最終的な顧客をどこに置くか、進出に有利な州はどこか、といった検討が必要）
 - ☆ 市場としてインドを考えたときに、商材によっては短期的には市場規模がさほど大きくないケースも多い。一方でよいインドパートナーと組むことで製造コストを下げることは十分に可能であり、インド国内市場のみに執着するのではなく、将来のインド市場の拡張を見据え、低コストでの生産を重視し、一部を国内向け、一部をインドから第三国への輸出に振り向けるなど販売先を増やすような工夫も重要ではないか。そういった視点からすると、B2Cの商材であれば、B2B向けを視野に入れると言うのも一つの視点となる。

- 何を「売り」にし、短期および長期的なアプローチ両方からの課題の整理
 - ◇ 既存のビジネスモデル（日本ではこれで成功したから同じモデルを導入とか、アジアでこの商品がヒットしたからそれを導入するなど）だけに固執するのではなく、自社の強みを明確にした上で、その強みがインドでどう活かせるのかを考える必要がある。

- ・ 可能性の考えられる分野
 - 農業：技術指導とそれに伴う農業機械・技術の導入促進（米など、日本が得意とする分野を中心に）
 - ◇ 種苗はチャンスがある分野だが、パテントが守られるかが課題。農業機械など高額なものは、購入時のファイナンスのスキームや、アフターサービスの提供も商品化の一環として検討をすべき。とはいえ、インドは価格コンシャスでもあり、農業セクターにはあまり予算もない企業が多い（＝零細農家も多い）。そこから考えると、いかに機能を絞って低価格な商品を作りあげるかという課題も存在する。
 - 水産業：養殖技術の導入による生産性向上＋供給、国際基準にあわせた養殖技術・資材の提供・販売
 - 食品加工：食品加工機械の提案および技術指導、食品加工・製造によるインドマーケットの攻略、および安価な生産現場としてのインドの可能性探索
 - ◇ 一次製品の一次加工のみならず二次加工を行うことも可能性あり。現在、インドのえびはタイやベトナムに輸出され、そこでフライなど二次加工されて日本に運ばれてもいる。これらを一貫してインド国内で展開することで、よりコストを下げた高付加価値品製造の可能性も考えうる。また、これらをインド国内に拡販することで、新しい市場作りも視野に入れることが可能となる。そういった意味では、海産物の冷凍・下処理といった一次加工だけでなく、フライなど一時調理済み食品を視野に入れた二次加工。また、野菜果物の冷凍やピューレといった一次加工だけでなく、パスタソースやドレッシングへの加工食品の製造なども考慮すべき。
 - 周辺サービス：農水産の生産・収穫の現場から加工場所までのロジスティクスおよび加工工場における原材料保管等の技術導入
 - ◇ コールドチェーンがないという課題は過去 10 年以上指摘されており、いまだ「インドのコールドチェーンは未整備」という認識しかない。また、コールドチェーンといっても必要とされる機能とそれに即したファシリティ・性能も多岐にわたり（マイナス 30 度の冷凍から 5 度のチルド保存・輸送など様々）、どの分野に注力すべきか、といった議論もある。
 - ◇ その一方で、既にえびの冷凍加工から輸出、ベルギーなどからの豚肉の冷凍輸入、インド国内でも米マケイン社などの冷凍食品などが流通し、外食チェーンから一般小売店まで幅広く流通している事情からすると、特定の製品群に絞

それらを運搬するためのコールドチェーンは明らかに存在している。勿論、各企業が自社で物流を行うといった工夫もマクドナルドなど外食チェーンでは行われているが、こういったコールドチェーンを利用している企業の周辺を探ることで、複数企業が共同で利用できるようなネットワークの可能性は探求できるのではないか。

- ・ これらを進めるにあたり、官民の連携は非常に重要である。インドは特に中央政府主導で様々なことが決まっていくが、実際の運用現場は州政府もしくはその下部組織となるが、この連動が取れていないことが多い。その州が注力する分野や事業など、各州の特性などを踏まえ、州政府レベルで行う日印交流や活動は、新たな事業に結び付けるのに有効と思われる。
- ・ 現在、日本政府及び企業のインド向けの視線は熱いが、それは日本企業・政府に限ったことではない。特にAP州の動向を見ていると、米国政府や米国企業、農業分野ではイスラエルやオランダなどが積極的な活動をしている。場合によっては無料で政府関係者の現地招待のようなことも実行されていると聞く。日本政府及び企業も、世界中に競合がいる、という認識をしっかりと持つ必要がある。
- ・ 日本企業や政府に期待を持ってもらえている間にいかに「実績」を作り上げるかということが重要となってくる。MOUの締結数や実際の進出企業数が該当するが、日本企業の進出プラン策定に時間がかかりがちであるというところからすると、その間を展示会やイベントと言ったアクティビティを利用しながら、日本企業のデリゲーション参加企業数やイベント参加企業数などの指標をインド側に見せながら、成果を確認していくことも重要と思われる。
- ・ また、官民共同で行うものとして、展示会の活用も有効と考えられる。共同展示による日本全体のプレゼンスを底上げする意味でも、そのような情報発信は有効と思われる。企業単位ではなく、テーマ・分野別のブースづくり、ビジネスマッチングの場の提供など、工夫することが望ましい。